



大谷中だより

自ら学ぶ 認め合う 大きな夢をもつ

夢のある
生き生きとした学校



令和7年2月10号

〒337-0014 さいたま市見沼区大谷1634-2
TEL 048-685-6982
さわやか相談室(直通) 048-685-8272
ホームページ <https://oya-j.saitama-city.ed.jp>

言いたいことは明日言え

校長 加藤 良夫

2月3日は立春、春の足音が聞こえてきそうですが、連日寒い日が続きました。また、ニュース等で、話題となるのが感染症の拡大です。インフルエンザの患者数が急増していると伝えられていますが、本校では、お陰様でまだ多くの感染には至っておりません。生徒の皆さん、そして保護者の皆様、引き続き感染防止にご留意していただければと思います。本校でも注意を促しているところですが、各ご家庭におかれましてもお子様の帰宅後、外出後の手洗い、うがい等の実施など、ご配慮よろしくお願ひいたします。

さて、1月11日(土)に本校の学校公開、新入生保護者説明会及び子育て講座を開催いたしました。当日は、とても寒い日でしたが、多くの方々にご来校いただきました。子育て講座において、さいたま市教育委員会 総合教育相談室 精神保健福祉士 岡本亮子氏 を講師に招聘し、「中学生になるころがまえ～親と子の距離感について～」と題して、思春期の特徴から親子関係の変化、境界線についてご講演をいただきました。

その中で、「物理的な境界線」は、身体、持ち物、時間、空間、性的な境界線があること、また、「心理的な境界線」は、考えや価値観、感情、尊厳、責任の境界線があり、思春期では、親子間で、境界線が曖昧になり、守られないことが起こりやすいこと、親子で考え方、感じ方に違いがあつてよいとのことでした。最後に境界線を守る工夫を例示いただきました。

この「境界線」については、保護者の皆様だけでなく、昨年度、今年度の1年生を対象に講師を招聘して、実施しております。生徒の皆さん、2年生は館岩自然の教室、1年生は校外学習の準備を進めてきたと思います。例えば、班や座席、ルールを決めているときに、自分の考えや思いが違うことで、感情に任せて言葉を発したことはありませんか。3年生は、受験に向けて学習しているときに、思ったような結果にならず、家族や友人にあたってしまったことはありませんか。その際に、どうして分かってくれないのか、理解してくれないのかと思ったことはありませんか。そして、時間が過ぎると、友人や家族に対して「何であんなことを言ったのだろう」「今になって思えば、自分が間違っていたのではないか」と後悔したこともあつたのではないのでしょうか。

「言いたいことは明日言え」ということわざがあります。これは、言いたいこと、思ったことがあつても、その場ですぐに言わないで、時間をおいてよく考えてから言うと、失言を免れるということなのです。腹が立っていたり、感情的になつたりしたときには、注意しなさいということなのです。

自分の気持ちだけでなく、相手の気持ち等を考えての言動は「境界線」の一つに当てはまると思ひます。これからの学校生活を楽しく過ごすために、改めて考えてみてはどうでしょうか。

今月は、1, 2年生は校外での活動があり、3年生は公立高校受験を控えています。全学年、大きな行事を行います。本校の生徒が、安心して行事を終えられるように、引き続き、保護者の皆様、地域の皆様のご理解、ご支援をよろしくお願ひいたします。